# 白石の新たな「宝」を未来に受け継ぐための第一歩

## 歴史シンポジウムin白石
## 南奥羽の戦国世界〜新発見！ 遠藤家文書に見る戦国大名の外交〜

### 市内外から集まった約400人が研究者の講演に耳を傾け、「遠藤家文書」を通じて、南奥羽の戦国時代に思いを馳せた

佐藤大介（さとうだいすけ）さん
NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク事務局長

### 「遠藤家文書」とは

12月10日、「南奥羽の戦国世界〜新発見！ 遠藤家文書に見る戦国大名の外交〜」と題したシンポジウムをホワイトキューブで開催した。このシンポジウムは、学会をリードする研究者が、遠藤家文書を通して見えてくる「南奥羽の戦国世界」を分かりやすく紹介しようと行われたものである。

まず、宮城資料ネット事務局長の佐藤大介さんが、遠藤家文書の概要を説明した。佐藤さんは、奥州各地の戦国大名や織田信長家臣から、遠藤基信をはじめ代々宿老を勤めてきた遠藤家に宛てられた書状のほか、遠藤家と縁戚関係にあった伊具郡金山（現在の丸森町）の領主中島家の書状、遠藤家が収集したとされる鎌倉・室町時代の古文書などが含まれていたことを説明。特に、戦国から江戸時代の伊達家の外交情報や仙台藩内部の政治的情報、和歌や連歌などの文化的情報を含んでいる点で、その意義を解説した。

そして、講演の結びに「NPOと行政、そして、地元住民が協働して保全活動することができた。今後、行政は適切な保存といつでも親しめるような環境を整備すること。市民は歴史に愛着を持つこと。専門家は知識を伝えること。未来に伝えていくためには人の力が必要である」と強調した。

### 伊達家の中の遠藤家

仙台市博物館市史編さん室長の菅野正道さんは、「遠藤家文書と伊達氏の外交」について講演を行った。菅野さんは、「遠藤家文書には伊達氏にかかわる戦国時代の古文書が約60通含まれている。特に、輝宗時代の書状は非常に珍しく、基信宛ての書状が約30通、基信が出した租税関係文書（段銭請取状）が17通も含まれていたことは、まさに大発見である」と、その歴史的価値を説明した。

続けて、「遠藤家は代々伊達家に仕えていたわけではなく、基信が伊達家重臣中野宗時の家臣から輝宗の側近に抜擢され、以後、諸大名との外交面で大きな役割を担うことになった。そして、政宗時代にその役を担ったのが片倉小十郎景綱である」と、基信と景綱の関係を話した。

最後に、「景綱は伊達家中級家臣の出身で、基信の推挙により政宗の側近となった。景綱は外交を担い、段銭徴収の責任者も務めた。単なる軍師や参謀ではなかった」と結んだ。

遠藤ゆり子（えんどうゆりこ）さん
弘前学院大学専任講師

### 南奥羽の戦国大名と伊達家

弘前学院大学専任講師の遠藤ゆり子さん、福島県立博物館主任学芸員の高橋充さん、大正大学准教授の佐々木倫朗さんは、「遠藤家文書」とそれぞれが研究する戦国大名との関係などをひもといて説明した。

遠藤さんは、葛西氏（宮城県北部から岩手県南部を領国）、最上氏（山形県山形市周辺を領国）、黒川氏（黒川郡周辺を領国）、白鳥氏（山形県河北町周辺を領国）から伊達家に宛てられた書状を紹介。「白鳥長久から基信に宛てた書状に、大崎氏（大崎市周辺を領国）が京都に向かう際、伊達領を通行できるよう交渉するものがあった。まさに外交を伝えるものである」と説明した。

長久は、後に最上氏に謀殺されたといわれてきたが、実在する人物なのかという疑問があった。今回の遠藤家文書に含まれていた書状により、その実在が明らかにされたのである。

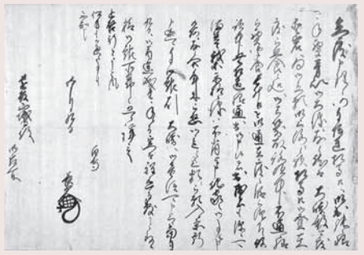
また、高橋さんは、蘆名氏（福島県会津地方を領国）と伊達家の状況を遠藤家文書を通して紹介。政宗時代には戦となった両氏も、輝宗時代は良好な関係を築き、輝宗次男を蘆名の養子にという内容の書状が、遠藤家文書に含まれていたこと、その中で、蘆名盛興の朱印が初めて確認されたことを解説した。加えて、連歌や舞に長けていた基信には、政治的な外交文書だけではなく、文化的な外交文書も含まれていたことに歴史的価値があると話した。

最後に佐々木さんが、佐竹氏（茨城県常陸太田市周辺を領国）との関係について講演を行った。佐々木さんは、南奥羽の戦国時代の和平交渉に着目。遠藤家文書の中には、輝宗が、佐竹氏と田村氏（福島県田村市周辺を領国）の仲介役（中人）として、南奥羽の大名たちとやりとりしていた書状が含まれていたことを指摘した。佐々木さんは「戦国時代、和平交渉はよく行われていたが、いつ行われたかが分からないものが多い。遠藤家文書により年代が確認できる可能性が高い。南奥羽の和平交渉をひもとく重要な資料である」と話した。

佐々木倫朗（ささきみちろう）さん
大正大学准教授

菅野正道（かんのまさみち）さん
仙台市博物館市史編さん室長

高橋充（たかはしみつる）さん
福島県立博物館主任学芸員



**白鳥長久書状**

大崎氏は上洛の際、相馬領を通ろうとした。だが、戦争中のため通れないらしいと聞き、伊達領の長井口を通りたいと白鳥氏に伝えてきた。そのため、白鳥氏が間に入り伊達氏に通行を許可するようお願いした書状である。

**蘆名盛興書状**

基信宛てのこの書状には、輝宗の次男を速やかに養子として遣わしていただけるよう、輝宗に進言してほしい。遅くなると、近隣の領主たちがいろいろと言い出すことになると書かれている。養子縁組は結果的に佐竹氏のてこ入れで失敗に終わったとされている。